

平成28年度第2回白井市地域福祉計画策定等委員会会議録（案）

1. 開催日時 平成28年9月27日（火） 午前10時から11時45分まで
2. 開催場所 白井市保健福祉センター 2階 研修室2
3. 出席者 阿部委員、岩本委員、石田委員、大西委員、柴委員、白石委員、田代委員、高尾委員、竹内委員、時田委員、中村委員、松本委員、村木委員
4. 欠席者 森谷委員、山口委員
5. 事務局 岡本課長、金井主査
コンサルタント 1名（田中）
6. 傍聴者 1人
7. 議題 ① 計画の骨子案について（公開）
8. 議事

事務局 本日の出席委員は13名であり、委員の半数以上が出席しているため、本日の会議は成立する。

本日の議題については、白井市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき公開とし、内容については録音しているのご了解願う。

それでは、議事の進行については委員長にお願いする。

委員長 次第に従い、議題の1. 計画の骨子案についてを議題とする。
事務局からの説明をお願いする。

（事務局より、「計画の概要」について説明）

委員 社協の計画と連携させていくことは前回の議論が反映されている。市民意識についてはネットワークをどう具体化していくかが課題ではないか。

委員 8頁のところにアンケートのデータがあると説得力が増すのでは。

事務局 データについては掲載したい。他の計画の前提についてもデータの更新をしていきたい。

委員 5頁の将来人口について、基本構想では目標人口を設定し、減少を抑制するようなニュアンスで書かれているので、こちらもその方向で記述したらどうか。

事務局 総合計画では平成32年をピークに減少していくが、減少を抑えていくという記述となっており、それをふまえて記述したい。

（事務局より、「めざす姿」について説明）

事務局 計画の位置づけでも説明したが、市の総合計画の理念に基づいて健康福祉分野における基幹計画として位置づけられているため、Ⅱ-2の基本的な考え方の部分に、健康分野など、基幹計画としての書き込みを加えていきたいと考えている。

委員 健康を維持するというのが一番重要なポイントだと思う。健康をどのよう

に維持していくのかという市の方針がきちんと決まり、それが市民に浸透すれば健康寿命も伸びるのではないかと。特に高齢者はこれまでの経験や見聞から考え方が固定化している。そうした人達に情報を届ける取組をした方がよいと思うのでよろしくお願ひしたい。

委員 「ともに生きるまち」というイメージは、障害のある人もない人もともに生きるというイメージがあるが、記述内容はサービス従事者のことが中心になっていて違和感がある。

委員 もう少し書き込みをした方がいいのではないかと。

事務局 記述内容の範囲が狭いと受け取られてしまうと問題がある。もう少し書き込みをしていきたい。

(事務局より、「基本目標Ⅰ きっかけづくり」について説明)

委員 16頁のあいさつについて、小学校などであいさつを奨励しているが、近隣市に比べると弱いと感じる。そうしたところから展開していくといい。具体的にどうしたらいいのかを考えて取り組めたらいい。

委員 あいさつには2つの側面がある。不審者の増加という問題があり、知らない人から声をかけられると不審者と判断されてしまう。学校でもあいさつを奨励しているが、知らない人にはあいさつしないということになる。子どもに関しては難しい部分がある。指導する側としても困っている。

委員 言われていることはその通りだと思うが、集団下校などで一緒に帰っているようなので、そうした場面では子どもから声をかけてもらえるといい。

委員 いつも同じところで旗を振っているおじさんなどであれば、子供も安心して声をかけられるのだが。

委員 地域でパトロールなどをしていると、最初は子ども達からはあいさつが返ってこなかったが、腕章をつけて複数で声をかけるようになると、あいさつが返って来るようになってきている。少しずつ変わってきている。

委員 親の立場としては、小学生が知らない大人にあいさつしていたら、子どもの安全面で怖いと感じるのではないかと。

委員 印西市などでは一般の道路で小学生がみんなあいさつをしてくる。高齢者にとってはうれしいことだし、その街に対してもいい印象を受ける。

事務局 健康福祉分野の基幹計画という位置づけになっているので、地域の中で顔見知りやふやしていくためにどうしたらいいか、ということについて、具体的な内容ではなく、理念的な書き込みをしていきたいと考えている。

委員 非常に難しいところだと思うが、基幹計画として、具体的に書くというよりは理念的に書くということだと思う。

事務局 本日は中間報告ということで事務局として記述したい内容をお示ししているが、今後、文章化していくにあたって、各課と調整をするなかで表現も変わってくると思う。

委員 色々な立場で色々な意見がある。それぞれの立場で次の一手を考えたらいい。顔見知りを増やすという目標に向かって、それぞれが、何ができるかということ

とだと思う。

委員 狙いとしては、地域の中で孤立している人をつくらないことが大切だ。大学で調査をすると、男性の単身世帯が孤立していることが多い。声かけなどは、そのあたりの対策としても重要であると思う。

委員 目標Ⅰ－２について、相談するときどこに連絡したらいいかわからない人が多いのではないか。総合窓口の設置や地域包括支援センターで受けていただけるといいのではないか。

委員 地域包括支援センターがいいのではないか。土日祭日は、役所は休みだが、土日夜間でも対応できるし、連絡もつきやすい。

事務局 地域包括支援センターは高齢者の方がメインの対象者となるので、障害に関することで相談されても対応できない。地域福祉計画としてどういう書き込みができるかは、今後検討させていただきたい。

(事務局より、「基本目標Ⅱ 関係づくり」について説明)

委員 20頁のⅡ－1－3にある「独り暮らし世帯などへのアプローチ」とは具体的にどうするのか。

事務局 具体的なアプローチ部分については、個別計画で考えており、具体的には声かけや、地域の行事への勧誘などが想定されてくると思う。

委員 私のまわりでも、様々なイベントをやっているが、その層が出てこないところに問題がある。

事務局 作業部会のなかでもそのあたりの話が出ており、行政、福祉に携わっている市民がともに課題と感じている部分となっている。現状では有効な対策は見つかっていないが、個別計画での具体的な取組につながる理念となるものを記述したい。

委員 「Ⅱ－1 関係が生まれる機会をつくる」と「Ⅱ－3 地域どうしの関係をつくる」は内容的に似ている。違いがわかりにくい。

事務局 必ずこの形でいくというわけではない。今は3つに分けているが、2つの方が分かりやすいということであれば、そうすることも考えられる。頂いたご意見も踏まえ関係課とも調整をし、検討したい。

委員 そう考えるとⅡ－3を前の方にして、地域での関係をつくった上で、育む輪をつくり、さらに広い視点から支援するというようにした方がきれいなような気がする。

委員 Ⅱ－3の方は町内会や自治会、小学校区など、地理的な広がりや区分した地域同士の連携ということなので、Ⅱ－1の方が広い内容なのではないか。

事務局 「関係が生まれる機会をつくる」は、個別のアプローチや、分野をまたがるような関係づくりをイメージしているが、「地域どうしの関係をつくる」は町内会から小学校区など、地域との係わり方を表現したつもりであるが、関係課と調整しながら、表現は検討していきたい。

委員 Ⅱ－1の方は、町内会や自治会などには属さない人もいて、そうした人も含めた関係づくりについて言及しているのではないか。Ⅱ－3の方は地域の中で

組織としてどうやっていくかということだと思う。

事務局 色々ご意見いただいたが、読んでいただく計画としていきたいと考えているので、表現の仕方、記述の順番等、もう少し検討させてほしい。

委員 目標Ⅱ－１のリード文の最後の文章が「地域での関係づくりを促します」となっている。これはⅡ－３の内容に近い感じがする。言いたいことが伝わる記述にしてほしい。

委員 「基本方針Ⅱ－２－３ 子ども達への学習支援」については、子どもプランなど記載するのが相応しいように思う。基幹計画ということであれば、もう少し、子どもの福祉などの大きな視点から記述すべきではないか。

事務局 基幹計画としての計画づくりが事務局でもまだ消化されていない部分がある。関係課と調整していきたい。

(事務局より、「基本目標Ⅲ 担い手づくり」について説明)

委員 地域福祉コーディネーターの役割が重要だと思う。福祉に関わる用語などは専門家しかわからないようなものが多い。地域福祉コーディネーターが、わかりにくい福祉と一般の人とをつないでいくということが、重要なポイントではないかと思う。これを充実させることが必要だと思う。

委員 その通りだと思う。地域福祉コーディネーターは、行政から社協へ事業が降りてきているが、まだまだ充実していない。

委員 コーディネーターの役割については、それぞれが違うイメージを持っている。そうした中で議論しているから噛み合っていない。それが問題だと思う。

委員 手話は結構多いが、点字などのサービスが行き届いていないので、充実していくとよいのではないか。

委員 以前に手話を小学校で教えていたが、中学にいくとそうしたカリキュラムがないので、子ども達が忘れてしまう。継続してやることが大事だ。計画をつくったら終わりではない。そこからが実務になる。

委員 大山口小学校で２３年前から４年生を対象に毎月１回、手話講座をやっている。今は各学校を回って手話講座をしており、継続してやっている。

委員 個人個人がステップアップしていくことが必要なのではないか。

委員 そうしたステップアップの講座もやっている。

事務局 実施計画のような記述になってしまっているが、今いただいたご意見を参考に、取組を継続するためにはどうしたらいいかという視点で、理念的な記述を考えさせていただければと思っている。

委員 基本方針のすり合わせと〈概要〉部分の整理をお願いしたい。

(事務局より、「Ⅴ 戦略プラン」について説明)

事務局 補足して説明させていただきたい。この部分は基幹計画として、総合計画との関係の中で作っているが、現状として事務局としてもまだ違和感を持っており、まとめきれないと感じている。この形で残していくのか、基本目標や基本計画に溶け込ませるのかなど、今後どのようにしていくのかについては、

少しお時間をいただいて、総合計画の担当課である企画政策課などとも調整して整理・検討したい。

委員 整理するにはもう少し時間が必要だと思う。引き続き整理・検討をお願いしたい。

委員 ここが一番大事なところだと思う。ここを具現化するのが地域福祉計画の役割ではないか。定住を促進していくという中で、産業が重要だと思うが、農業はこの15年間で半減しているのに、行政からは何の働きかけもない。非常に危機感を感じている。大元に戻って考えていかないといけない。

事務局 委員の意見も踏まえ、総合計画と地域福祉計画との関係、個別計画との関係を整理しつつ検討させていただきたい。

委員 障害者の表記については、「障がい者」とすることに現行計画でなっていたかと思うが、そのあたりができていないので対応してほしい。

事務局 今のご意見も含め、計画にそぐわない表現等も散見されるため、今後十分修正して、肉付けした計画案をお示ししたい。

委員 「障がい」については、現行計画の時点でそのような表記にすることを決めたものなので、最後にまとめてではなく、その都度きちんと修正していただきたい。

3 その他

(1) 今後の策定スケジュールについて

事務局 作業部会に返して修正する。10月下旬から11月上旬で次回開催したい。文章化した内容で諮りたい。日程は改めてご連絡する。

委員長 他に意見がなければ、本日の地域福祉計画等策定委員会は以上で終了する。

使用した資料

- ①資料1 白井市地域福祉計画（しろい支え愛プラン）骨子案